

年次報告書 2017

子 ども た ち の 明 日



認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

年次報告書によせて

皆様の温かいご支援があってこそ、CYRが今日まで活動を続けてこれましたことを、まず感謝申し上げたいと思います。

2017年4月には、関口晴美さんが長年のカンボジア勤務を終え帰国し、当会の事務局長という重要な任務を引きうけてくださいました。現地を支える力強い後ろだてとなり、日本から支援の現場を支えていくことになります。現地事務所の体制を固め、カンボジア人のスレイさんが事務所長として現地の事務所、事業管理・運営に責任を持って仕事を進めています。私としても、安心して新しいスタートを切ることができたと感じております。カンボジアでは、昨年は、村の幼稚園1か所、2クラスが新設され、4月には、4か所の村の幼稚園を、地域の運営に移行することができました。今後も、引き続き、皆さまのあたたかいご協力をお願いいたします。

去る5月27日に会員総会を開催いたしました。当日は少ない出席者ではありませんでしたが、熱心な参加者が多く、CYRの将来について、円陣で意見交換をしました。その話の中で、今後のCYRがどのように活動資金を増やし、現地の人々を支援していけるか、また年々減少している資産についての問題提起がなされました。

CYRは今ひとつの曲がり角にあり、根本的に今までの歩みの振り返りが必要な時期に来ています。私の代表理事としての任期も残すところあと約1年ではありますが、CYRに関わっていただいている皆さまと共に、新しい夢と目標を見出していきたいと考えています。



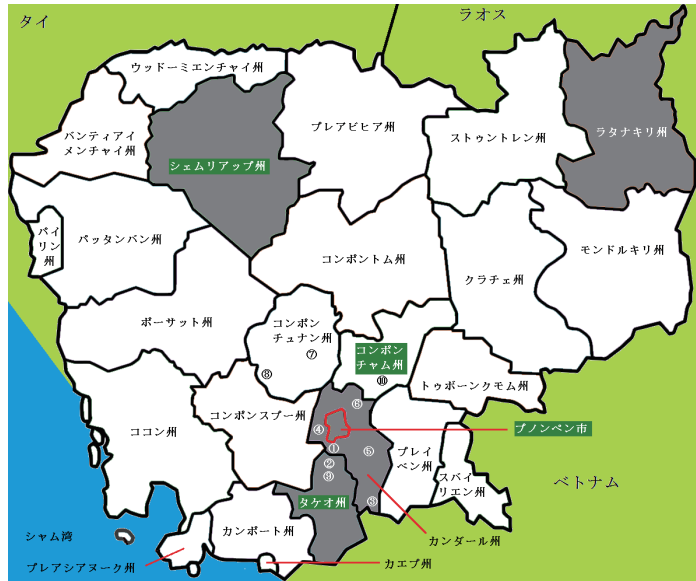
廣戸 直江

目次

年次報告書に寄せて・目次	2
活動概要	3
2016年度事業報告と2017年度事業計画	
I カンボジア保育事業	4
II カンボジア織物事業	6
III 日本国内事業	7
2016年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会	
・2016年度決算・監査報告書・2017年度予算	9
・活動収支年度別推移表	12
幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体	
・2016年度 補助金受け入れ先、寄付者	13
・2016年度 みんなで布チョッキン実施団体、織物製品主要販売先	14
わたしたちの組織	
・会員数、寄付者数、役員、職員、活動履歴	15

活動概要

- ① カンダール州 カンダールスタン郡（バンキアン保育所、プレイタトウ保育所、プラサート村の幼稚園、タプロム村の幼稚園）
- ② タケオ州 バティ郡（カンダール村の幼稚園、トロピエンクロライン村の幼稚園、プンプノン村の幼稚園）
- ③ カンダール州 ルークダエク郡（カオム・ソムノルー村の幼稚園、カオム・サムノルークロム村の幼稚園、リアンチュー村の幼稚園）
- ④ カンダール州 アンスヌール郡（チュティール村の幼稚園、クランリブ村の幼稚園）
- ⑤ カンダール州 キーンズバイ郡（スダオカンラエン・プラム村の幼稚園）
- ⑥ カンダール州 クサツ・カンダール郡（スバイドムナック村の幼稚園）
- ⑦ コンボンチュナン州 ロリアビア郡（プレクリアン村の幼稚園）
- ⑧ コンボンチュナン州 トクポホ郡（プレイチュロウ村の幼稚園）
- ⑨ タケオ州 トロピエンクラサン織物研修センター
- ⑩ コンボンチャム州 アンコールバーン村（藍染め研修実施地）



- 2016年度に遊具（「みんなで布チョッキン」で製作した布ボール・人形）を配布した州
- 州 織物・染色研修、織物製品の展示・販売などを実施した州

I カンボジア保育事業

長期間にわたり直接支援をしてきたカンダール州の2保育所は、自主運営に向けての話し合いを行い、2保育所の運営の在り方を協議した。「村の幼稚園」のうち、カンダール州のタプロム村、タケオ州の3カ所は、2016年度をもって地域の運営委員会へ運営管理を移管した。2016年度には、カンダール州のスバイドムナック村に幼稚園（2クラス）を新設、2017年度は、カンダール州とコンボンチュナン州に計3カ所新設予定。また、首都スラム地区の保育所への給食支援の他、現地NGOを通じて全国の保育施設への遊具提供を行った。



II カンボジア織物事業

織物事業は、タケオ州で伝統的な染織の技術を伝承することを目的とした「拵織り研修」と「伝統絹絵拵ピダン研修」を実施した。コンボンチャム州のアンコールバーン村では藍染め技術研修を実施した。販売事業では、新しい製品づくりを極力抑え、在庫品のスカーフやピダンなどの販売に注力した。



III 日本国内事業

2016年度、福島県「やまゆり保育所」へ飲料水支援に加え遊具を提供した他、宮城県「おぞら保育園」へは音響設備を支援した。2016年12月末に募金活動を終了し、2017年度は、震災指定募金繰越金の範囲内で「やまゆり保育所」への飲料水支援のみ継続の予定。2017年度「みんなで布チョッキン」の活動では、企業やボランティアの方々の協力を得て、前年度に比べて多くの人形やボールの素材を現地に送ることができた。2018年版のCYRカレンダーも引き続き高橋智史氏の撮影で、制作・販売する。

2016 年度事業報告と 2017 年度事業計画

I カンボジア保育事業

1. CYR 独自事業

バンキアン保育所・プレイタウ保育所(両保育所で計59名在籍)

両保育所では、保護者から支払われる協力金で、直接事業費の多くをまかなうことができるようになった。1992年より運営を開始した両保育所の自立を達成するため、保育所運営の形態について、地区長をはじめとする村人や保育者と協議を重ねた。その結果、プレイタウ保育所はこれまでと同様に1日保育を行う施設として残すが、バンキアン保育所は1日3時間の保育を行う「村の幼稚園」に移行することを決定した。



© 高橋 智史

所在地	保育所名	開設年	園児数	保育者	給食	備考
カンダール州	プレイタウ保育所	1991年	34	3→2	朝・昼給食、おやつ、豆乳	
	バンキアン保育所	1994年	23	3	朝・昼給食、おやつ、豆乳	2017年度「村の幼稚園」に移行

村の幼稚園

2011年開設のプラサート村の幼稚園は2016年4月より自主運営に移行し、それ以降はCYRによる支援は年4回のモニタリングのみとなり、2017年3月にはモニタリングも終了した。また2017年4月には、2011年度開設のタブロム村の幼稚園と、2013年度開設のタケオ州バティ郡の3カ所の村の幼稚園が自主運営に移行した。2016年度には、カンダール州クサツ・カンダール郡にて、累計11ヶ所目となるスバイドムナック村の幼稚園(2クラス)を開設した。さらに2017年度には、カンダール州とコンポンチュナン州から要請に応え調査を実施した結果、3村で新たに村の幼稚園を開設する予定。村の幼稚園では、こどもの日や卒園式などの行事をそれぞれ実施している。2016年度は、9村の幼稚園から計87名の子どもたちが卒園し、各地域の小学校に入学した。



所在地	村の幼稚園名	開設年	園児数	保育者	補助給食	備考
カンダール州	バンキアン	1994年	23	1	豆乳・おやつ	2017年度「保育所」から移行
	ブラサート	2011年	-	1	豆乳・おやつ	2017年度支援終了
	タブロム	2011年	14	1	豆乳・おやつ	2017年度自主運営へ
	リアンチュウ	2014年	37	1	豆乳・おやつ	
	カオム・ソムノルー	2014年	50	1	豆乳・おやつ	
	カオム・ソムノクロム	2014年	40	1	豆乳・おやつ	
	チュティール	2014年	13	1	豆乳・おやつ	
	スダオカンダエン・ブラム	2015年	32	1	豆乳・おやつ	小学校内に設置、トイレ建設
	スバイドムナック	2016年	75	2	豆乳・おやつ	園舎新設、2クラス
	クランリブ	2017年	-	1	豆乳・おやつ	2017年10月開園予定
タケオ州	カンダール	2013年	33	1	豆乳・おやつ	2017年度自主運営へ
	トロピエンクロライン	2013年	20	1	豆乳・おやつ	2017年度自主運営へ
	ブンブノン	2013年	32	1	豆乳・おやつ	2017年度自主運営へ
コンポンチュナン州	プレクリアン	2017年	-	1	豆乳・おやつ	2017年10月開園予定
	プレイチョロウ	2017年	-	1	豆乳・おやつ	2017年10月開園予定

2. 現地 NGO 支援事業

カンボジア NGO 支援事業

これまで続けてきた都市スラムの保育所 9 ヶ所への豆乳支援に加え、ケマラの要請に応えるかたちで、2015 年開設の保育所 3 ヶ所への支援を開始した。ケマラが、長く運営してきた 6 ヶ所の保育所のうち、4 保育所が閉鎖、「マタピアアップ保育所」と「コー第 1 村保育所」の 2 ヶ所の保育所が自主運営に移行した。CYR では、2 ヶ所の保育所で、給食に必要なお米の支援を開始した。2017 年度 CYR では、自主運営を始めた 2 つの保育所に支援を集中する。

また幼児教育活動を実施する NGO 2 団体からの要請で、布ボール、人形をシエムリアップ、ラタナキリ、カンダール、タケオ州のそれぞれの保育施設 54 か所 97 クラスに、ボール 840 個と人形 336 体を提供した。保育者 104 名、子ども 3722 人に使われている。



3. 教育省との共同事業「公立地域幼稚園への保育教材の支援・研修」

公立地域幼稚園

カンボジア政府は地域行政が運営・管理する「公立地域幼稚園」を、2014 年からの 3 年間で全国に 1,000 ヶ所を開設した。しかし、新設された公立地域幼稚園では、保育者の知識や技量が足りなく、また教材の質と量とも十分でなかったため、CYR では 2014 年度から保育者に向けた研修を実施すると同時に、保育教材や遊具を提供してきた。2015 年度までに 641 ヶ所への支援を完了したが、2016 年度は資金の目途が立たず事業が実施できなかった。2017 年度は 10 州 273 ヶ所で保育教材（絵本 7 種、パズル 2 種、遊具）を提供し、活用方法について研修する予定。資金の調達次第では 20 州 306 ヶ所に範囲を拡大する。



▶ II カンボジア織物事業

1. 織物技術研修事業

「伝統絹絵絣ピダン」研修

2016年度は、伝統絹絵絣ピダンの括り染めと織りを若い織り手に伝承することを目的に、3ヶ月の研修を実施した。研修では熟練した織り手であるベッ・キム氏を指導者として、復元模様を含む4種のピダンを織りながら、織り手たちに伝統的な染織技術を伝承した。2017年度も同様の活動を実施する。

絣織り技術研修

環境に優しい草木染め技術の普及を目指し、農村で暮らす人々へ「絣織り研修」を提供した。3ヶ月間の絣織研修は、ピダン研修同様にベッ・キム氏を指導者として実施、参加者は4種類の絣模様を完成させた。2017年度は実施の予定なし。

藍染め技術の復興と持続的な開発

コンポンチャム州コーンミア郡アンコールバーン村にて、藍染め技術研修を実施した。研修参加者が染料である泥藍を自主的に計1,250kg制作した。品質は良く、染料作りの技術は村人に定着している。2016年8月～10月の期間に織物研修を実施、研修参加者が自ら染めた糸でスカーフを製作・販売し収入向上につなげることを目的とした。また9月には、沖縄県在住の藍染め専門家2名を招へいし、1週間の染め研修を実施した。その他には、村のボランティア2名を対象に、2週間の販売研修を年間で計4回実施した。2017年度も事業を継続する。

2. 織物販売—カンボジアでの資金確保を目指して

2016年度は、年6回のセール、年4回の草木染めワークショップを実施し、多くの人にショップへ足を運んでもらうとともに、在庫の一扫に力を入れた。また、年7ヶ所（計20日間）の展示販売会に参加して、伝統織物の周知に努めた。2016年度の売上額\$ 58,007で、販売活動にかかる年間の支出の82%をカバーした。

2017年度も、セールの実施やカンボジア国内外の展示販売会への出展を通じ、販売の拡大に努める。また新たな顧客の獲得を目的に、ショップでの草木染め体験も計画している。



▶ III 国内事業

1. 東日本大震災被災地支援

2016年度は、福島県「やまゆり保育所」に毎月240ℓの飲料水を届けると同時に、「ままごとキッチンセット」を支援した。また、宮城県「おおぞら保育園」へ、保育園の環境整備として「音響設備一式」を支援した。東日本大震災被災地支援への募金活動は2016年12月末をもって終了したが、2017年度は、これまで集まった募金の範囲内で「やまゆり保育所」への飲料水支援を継続する。



2. 資金確保のための活動

2016年12月より「村の幼稚園」で配布するおやつ代と運営費を賄う目的で「ゆでたまご募金」を開始した。また、財政状況の回復を目指し積極的に助成金の申請を行った。さらに、2016年度もクラウド・ファンディングへの挑戦し、公立地域幼稚園の保育者研修で使用する教材の制作費や「ゆでたまご募金」などへの支援を呼びかけた。



3. 広報事業

「みんなで布チョッキン」

2016年度中の「みんなで布チョッキン」の活動により製作された人形は1,278体、布ボールは3,266個に上り、寄付額の合計は3,127,000円であった。企業・団体などの法人での実施回数は延べ58回、参加者数は延べ1,634名であった。また、個人では延べ59名がこの活動にご参加いただいた。



2016年度 数字とグラフで見る 若い難民を考える会

▶ 活動計算書（要約）

（自2016年4月1日 至2017年3月31日）

（単位：千円）

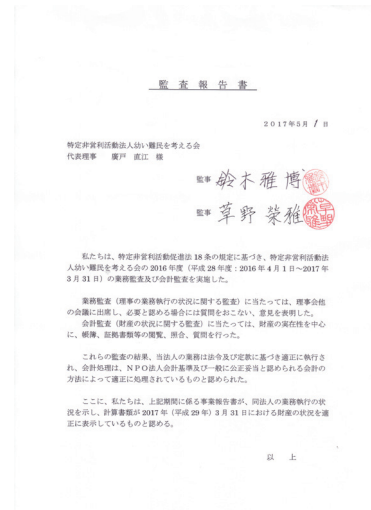
科目	2015年度決算	2016年度決算	増減	2017年度予算
I 経常収支				
1 会費収入	1,906	2,219	313	2,000
2 寄付収入	20,965	20,758	△ 207	17,660
3 事業収入	11,733	10,319	△ 1,414	7,847
4 補助金収入	3,899	11,654	7,755	7,732
5 その他収入	1,025	471	△ 554	0
経常収益計	39,529	45,420	5,891	35,239
II 経常費用				
1 事業費				
(1) 人件費	18,845	11,095	△ 7,750	14,042
(2) その他経費	16,361	14,392	△ 1,969	14,098
事業費計	35,207	25,487	△ 9,720	28,140
2 管理費				
(1) 人件費	6,988	11,087	4,099	3,037
(2) その他経費	4,673	6,399	△ 5,262	3,899
管理費計	11,661	17,487	5,826	6,936
経常費用計	46,868	42,974	△ 3,894	35,076
当期経常増減額	△ 7,338	2,446	9,784	163
III 経常外収益				
1 その他収益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
IV 経常外費用				
1 その他費用	64	70	6	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 7,338	2,377	9,675	163

▶ 貸借対照表（要約）

2017年3月31日現在

（単位：千円）

科目	金額
I 資産の部	
流動資産	36,261
固定資産	867
資産合計	37,128
II 負債の部	
流動負債	48
固定負債	5,978
負債合計	6,025
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	28,726
当期正味財産増減額	2,376
正味財産合計	31,103
負債及び正味財産合計	37,128

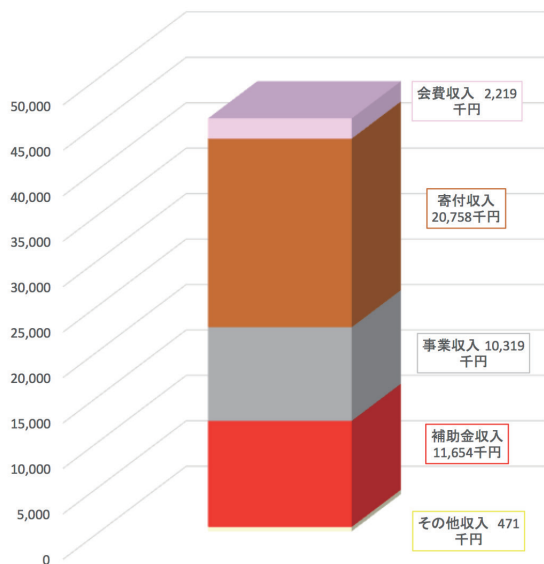


- 2016年度の会費収入は、前年度比313千円のプラス、予算との比較ではプラス689千円となった。3年間以上の会費未納者を退会処理したため会員数は減少したが、会員に向けて「会費納入のお願い」を郵送した結果、会費納入率が上昇した。
- 2016年度の寄付金収入は、前年度マイナス208千円であった。マイナスとなった大きな理由は、これまで寄付金として扱ってきた資金の一部を2016年度より補助金として分類したため、予算との対比では4,430千円のプラスとなっている。
- 東京、カンボジアの両事務所で織物販売専任職員を置かなかったこと、また在庫処分のため販売価格を大幅に下げたことにより、織物販売額は前年比1,445千円減額した。一方で、織物販売にかかる人件費2名分を削減したこと、また新しい製品の製作を制限したことで、経費も前年比2,395千円のマイナスとなった。収支ベースでは前年比950千円のプラスとなった。
- 2016年度の補助金収入は11,654千円、前年比で総額7,755千円のプラス、予算との比較でも2,352千円のプラスとなった。これまで寄付金として扱ってきた寄附金の一部を2016年度より補助金として分類したことに加え、新規補助金の獲得に力を注いだ結果による。
- 2017年度の会費・寄付金収入は、前年度実績の約80%で計上している。補助金収入については、既に助成が決まっている助成金に加え、今後申請予定の補助金・助成金が取れる可能性を考慮した上で算出している。
- ピダンは2014年度まで棚卸資産として計上したが、2015年度に続き2016年度に於いても、時価の下落を考慮して除外した。
- 東京、カンボジアの両事務所でスタッフ数を減らしたこと、織物生産量を絞ったこと、初期投資が必要な「村の幼稚園」の開設が1村に限られたことなどが、事業の支出が抑えられた要因として考えられる。

▶ 2016年度 収入・費用の内訳

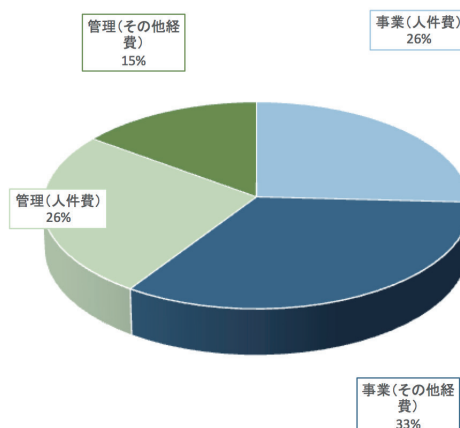
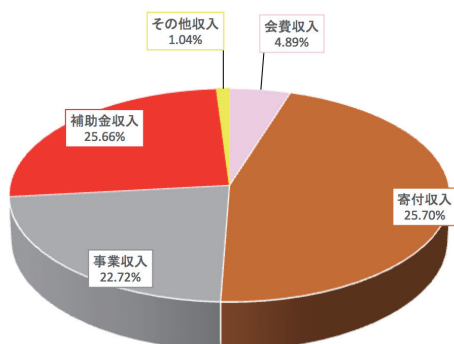
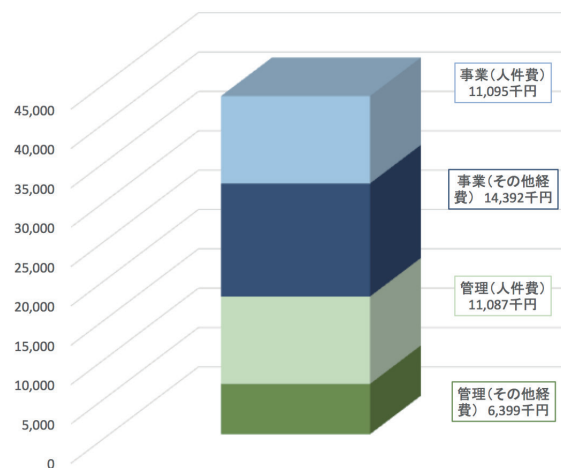
収入

経常収益計 45,421千円



支出

経常費用計 42,874千円



▶ 2016年度事業部門別 活動計算書

(自2016年4月1日 至2017年3月31日)

(単位: 千円)

科目	合計	カンボジア事業				国内事業			管理
		保育	織物研修	織物販売	広報	織物販売	震災		
I 経常収益									
会費収入	2,219	0	0	0	0	0	0	2,219	
寄付収入	20,758	7,302	185	0	0	0	158	13,113	
事業収入	10,319	209	0	6,560	720	2,830	0	0	
補助金収入	11,654	6,958	4,696	0	0	0	0	0	
その他収入	471	0	0	0	0	0	0	471	
経常収益計	45,420	14,469	4,881	6,560	720	2,830	158	15,802	
II 経常費用									
人件費計	22,182	3,934	620	580	4,382	44	1,536	11,087	
その他の経費計	20,792	3,134	2,291	5,983	97	2,260	628	6,399	
経常費用計	42,974	7,067	2,911	6,563	4,479	2,304	2,164	17,487	
当期正味財産増減額	2,376	7,402	1,970	△ 3	△ 3,758	526	△ 2,006	△ 1,754	
前期繰越正味財産額	28,726	0	0	0	0	0	0	28,726	
次期繰越正味財産額	31,103	7,402	1,970	△ 3	△ 3,758	526	△ 2,006	26,972	

▶ 2017 年度事業部門別 活動予算書

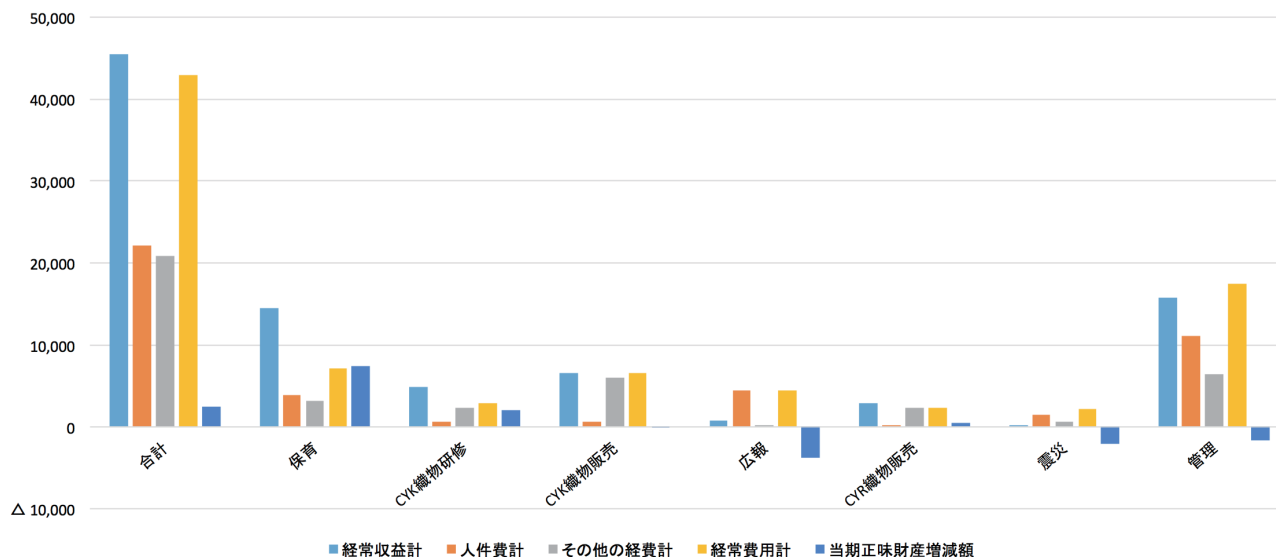
(自 2017 年 4 月 1 日 至 2018 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

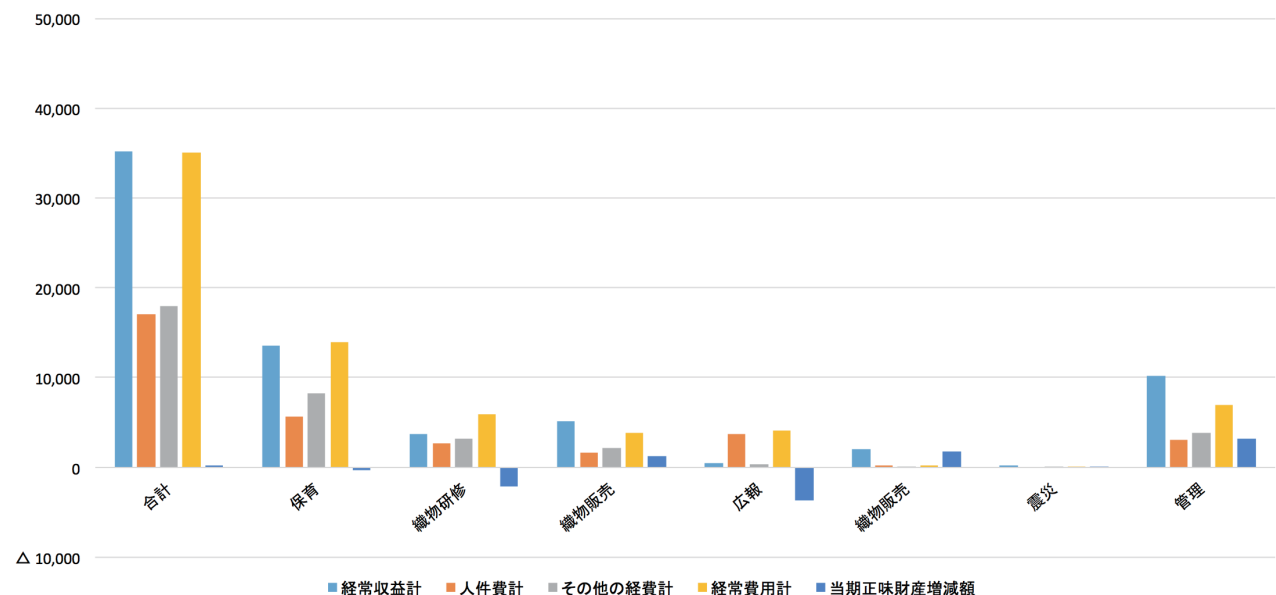
科目	合計	カンボジア事業			国内事業			管理
		保育	織物研修	織物販売	広報	織物販売	震災	
I 経常収益								
会費収入	2,000	0	0	0	0	0	0	2,000
寄付収入	17,660	9,331	0	0	0	0	160	8,169
事業収入	7,847	206	0	5,161	480	2,000	0	0
補助金収入	7,732	4,027	3,705	0	0	0	0	0
その他収入	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	35,239	13,564	3,705	5,161	480	2,000	160	10,169
II 経常費用								
人件費計	17,079	5,693	2,700	1,702	3,745	202	0	3,037
その他の経費計	17,997	8,229	3,156	2,171	371	21	150	3,899
経常費用計	35,076	13,922	5,856	3,873	4,116	223	150	6,936
当期経常増減額	163,000	△ 358	△ 2,151	1,288	△ 3,636	1,777	10	3,233
当期正味財産増減額	163,000	△ 358	△ 2,151	1,288	△ 3,636	1,777	10	3,233
前期繰越正味財産額	33,490	0	0	0	0	0	0	33,490
次期繰越正味財産額	33,653	△ 358	△ 2,151	1,288	△ 3,636	1,777	10	36,723

▶ 2016 年度事業部門別活動計算書 / 2017 年度事業部門別活動予算書 比較

2016年度事業部門別収支 実績



2017年度事業部門別収支 予算

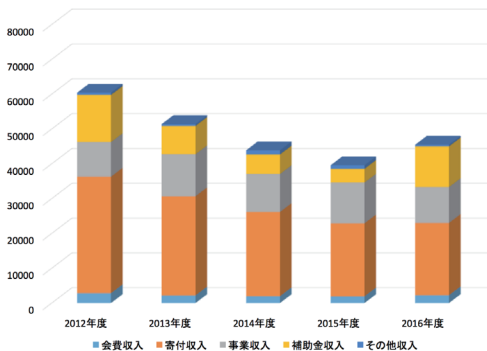


▶ 活動収支年度別収支表

(単位：千円)

科目	2012年度決算	2013年度決算	2014年度決算	2015年度決算	2016年度決算
I 経常収支					
1 会費収入	2,803	2,171	1,949	1,906	2,219
2 寄付収入	33,457	28,479	24,180	20,965	20,757
3 事業収入	9,959	12,079	10,919	11,733	10,319
4 補助金収入	13,520	8,103	5,589	3,899	11,654
5 その他収入	655	517	1,196	1,025	471
経常収益計	60,394	51,349	43,833	39,529	45,420
II 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費	37,504	21,452	18,961	18,845	11,095
(2) その他経費	42,846	21,213	20,518	16,361	14,392
事業費計	80,350	42,665	39,479	35,207	25,487
2 管理費					
(1) 人件費	12,459	7,985	6,896	6,988	11,087
(2) その他経費	6,811	6,008	7,401	4,673	6,399
管理費計	19,270	13,993	14,297	11,661	17,487
経常費用計	99,620	56,658	53,776	46,868	42,974
当期経常増減額	△ 39,226	△ 5,309	△ 9,943	△ 7,275	2,446
III 経常外収益					
当期正味財産増減額	△ 39,226	△ 1,426	△ 8,819	△ 7,339	2,376
前期繰越正味財産額	85,536	46,310	44,884	36,065	28,726
次期繰越正味財産額	46,310	44,884	36,065	28,726	31,103

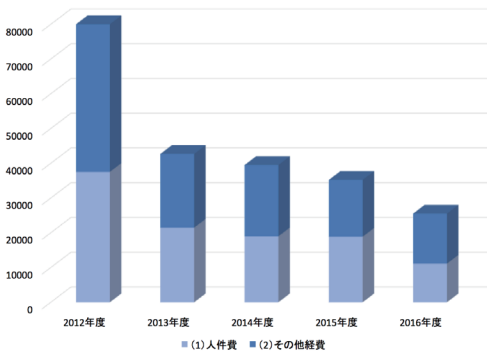
経常収入の内訳推移



経常収入の内訳推移

東日本大震災の影響で、2011年度に続き、2012年度にも被災地での支援活動へ募金が集まったが、震災から時が経過するにつれて「震災支援」に向けた寄付金額は減少し、それが2015年度までの寄付総額の減少傾向に繋がっている。2016年度には、前年度まで寄付金として計算していた資金の一部を補助金として分類したが、遺贈による大口寄付があったことにより、寄付総額は2015年度水準を維持することができた。また、補助金収入も震災後は減少傾向にあったが、2016年度に積極的に補助金申請を行い上昇に転じた。その結果、減少傾向にあった経常収益全体も、2016年度には4,542万円と2015年度を若干上回る結果となった。

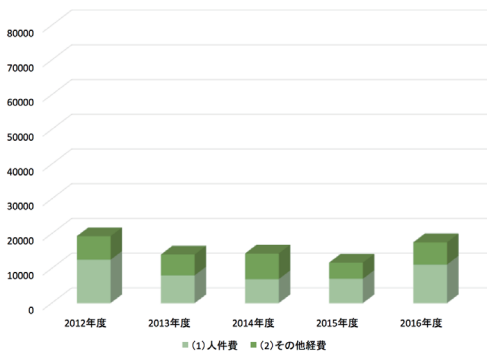
事業費の内訳推移



事業費の内訳推移

東日本大震災被災地への支援を2011年度の事業規模のまま継続したことから、2012年度の事業費支出は8,035万円と高い水準を保った。2013年度に入ると被災地での支援に対する需要も落ち着きを見せ始めたため、また支出に見合った収入が確保できなくなったため、活動の主軸を本来のカンボジアでの事業に戻し、それまで年間8,000万円超あった事業費支出を4,267万にまで抑えた。2014年度には3,948万円、2015年度には3,521万円と事業規模を縮小したが、収入も年々減少したため、2012年度から2015年度の4年間で6,182万円の資産が減少することとなった。そのため、2016年度は人員体制と事業内容の見直しにより、2,549万円まで事業費を大幅に縮小した。

管理費の内訳推移



管理費の内訳推移

2012年度の事業費と管理費を合わせた人件費4,996万円は、2011年度の5,339万円から343万円減少した。2014年度の管理費は東京事務所の引越費用の負担があり微増した。経常収益が2011年度の11,518万円から2012年度6,039万円へ5,822万円減少し、2012年度は人件費支出を収入で賄いきれず、3,923万円の正味財産の減少となっている。2013年度は、期中で職員3名が退職したこと及び新規採用者の給与ベースの引下げにより、人件費は前年度比大幅減となった。2016年度にはさらに支出の抑制を狙い人員体制を見直し、事業費と合わせ365万円を削減した。なお、2016年度の管理人件費410万円の上昇は、2015年度まで事業に計上していた人件費の一部を実態に合わせ管理費に移したことによる。

幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体

▶ 2016年度 補助金・助成金を通じてご支援いただいている企業・団体

• 公益財団法人日本国際協力財団	-----3,500,000 円
• 日本労働組合総連合会	-----1,400,000 円
• 株式会社フェリシモ	-----936,657 円
• 積水ハウス株式会社	-----750,000 円
• 積水ハウスマッチングプログラムの会	-----750,000 円
• 全日本自治団体労働組合（自治労）福岡県本部	-----700,000 円
• 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン厚木	-----500,000 円
• 一般財団法人地球・人間環境フォーラム	-----346,000 円
• 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンざま	-----200,000 円
• 公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団	-----\$9,000.00
• Friends of Khmer Culture	-----\$5,752.00

(2016/4/1 ~ 2017/3/31 入金分を記載しています。)

▶ 2016年度 寄付者（寄付金 10万円以上の団体）（50音順）

- 株式会社一五不動産情報サービス
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンざま
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンたま
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン都筑
- 枝光学園幼稚園
- 幼い難民を考える会チャリティ・バザーグループ
- CANTATE DOMINO
- 関東学院六浦中学校・高等学校生徒会
- キューピー株式会社
- 一般財団法人恒友・助け合い基金
- 全国友の会
- 全日本自治団体労働組合（自治労）福岡県本部
- 東京海上日動あんしん生命保険株式会社
- 三菱商事株式会社
- 株式会社ロイヤリティマーケティング

(2016/4/1 ~ 2017/3/31 入金分を記載しています。)

▶ 2016年度 「布チョッキン募金」寄付者（団体のみ）

実施団体名

- ・ アクセンチュア株式会社
 - ・ 伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社
 - ・ WE21 ジャパンあやせ
 - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン港南
 - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや
 - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン大和
 - ・ 教覚寺女性の会
 - ・ ゴールドマン・サックス証券株式会社
 - ・ サントリーグループ労働組合協議会
 - ・ サントリープロダクツ株式会社
 - ・ サントリーホールディングス株式会社
 - ・ 株式会社ジェーシービー
 - ・ シティグループ証券株式会社
 - ・ 全日本自治団体労働組合（自治労）神奈川県本部
 - ・ 千葉県体験活動ボランティア活動支援センター
 - ・ 東京海上日動火災株式会社
 - ・ 株式会社東京海上日動キャリアサービス 東北支社・盛岡支社
 - ・ 日本オラクル株式会社
 - ・ ハンモックツリー
 - ・ 丸紅株式会社・関連会社
 - ・ 三井住友海上火災保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ
 - ・ レクシスネクシス・ジャパン株式会社
- (2016/4/1～2017/3/31 入金分を記載しています。)

実施協力団体名

- ・ 公益社団法人日本フィランソロピー協会
 - ・ 東京ボランティア・市民活動センター
- (2016/4/1～2017/3/31 入金分を記載しています。)

▶ 2016年度 織物製品主要販売先（団体のみ）

団体名（所在・販売形態）

- ・ 有限会社アイ・エンタープライズ（東京・注文）
 - ・ 株式会社アートダイジェスト（東京・委託）
 - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン都筑（神奈川・委託）
 - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや（神奈川・委託）
 - ・ 株式会社嘉門工藝（東京・委託）
 - ・ J Khmer（シェムリアップ・委託）
 - ・ Soka Siemreap Resort & Convention Center（シェムリアップ・委託）
 - ・ ゾナゾナクラブ（奈良・委託）
 - ・ 社会福祉法人「あしたの会」たんぼぼ保育園（東京・買取）
 - ・ 東慶寺ギャラリー & ショップ（神奈川・委託／買取）
 - ・ 富阪こどもの家（東京・買取）
 - ・ 公益財団法人日本国際協力財団（東京・買取）
 - ・ ハンモックツリー（愛知・委託）
 - ・ 和風雑貨 BLUE&WHITE（東京・委託）
 - ・ 株式会社細尾（京都・注文）
 - ・ 横浜雙葉中学高等学校（神奈川・委託）
 - ・ Le Méridien Angkor（シェムリアップ・委託）
- (2016/4/1～2017/3/31 入金分を記載しています。)

わたしたちの組織

▶ 会員数・寄付者数・役員・職員

会員数

内訳	2011年3月末	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末	2015年3月末	2015年3月末	2017年3月末
個人	370	339	342	339	340	328	284
団体	6	6	6	9	8	9	9
学生	15	15	10	3	3	3	4
計	391	360	358	351	351	340	297
賛助会員	47	45	(注) 2012年6月より賛助会員の制度は廃止しました。				

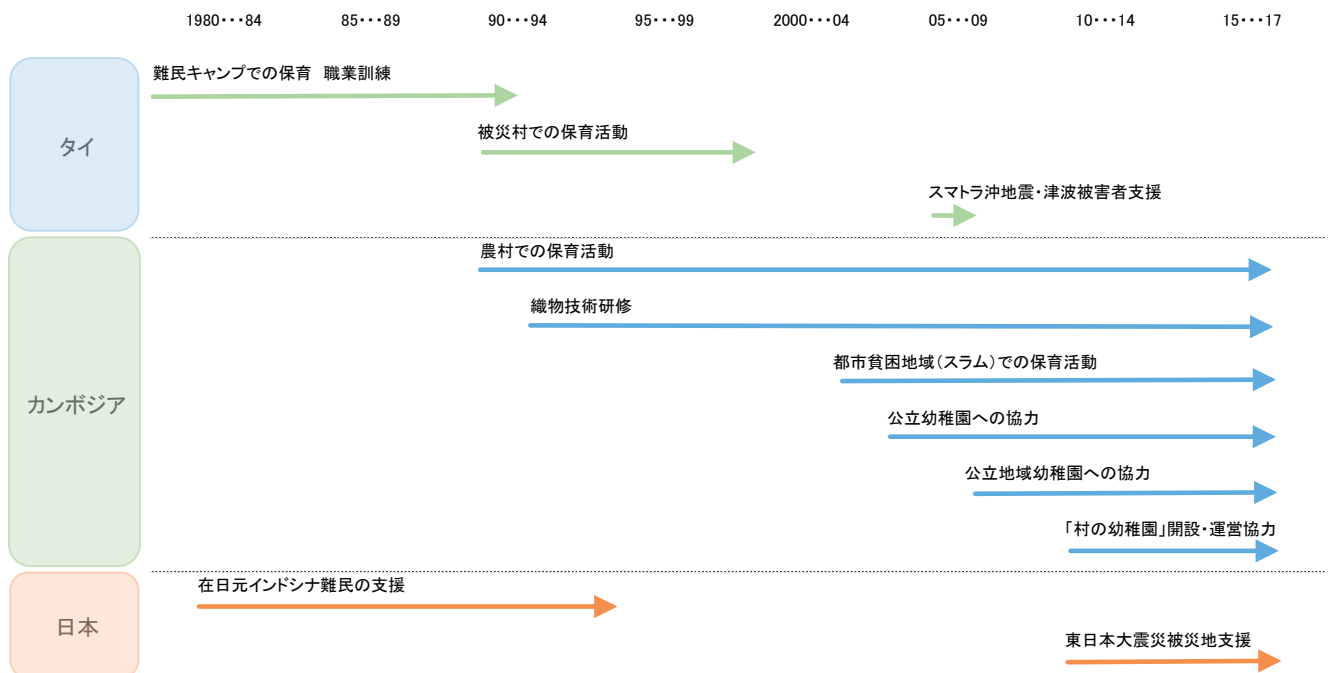
寄付者数

	2011年3月末	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末
計	541	2,018	1,389	537	479	452	523
			個人	428	370	357	445
			団体	109	109	95	78

役員

2017年3月末現在		職員	
代表理事	廣戸 直江	2017年3月31日現在	
副代表理事	山極 小枝子	東京事務局	: 3名 (事務局長 鎌田 苑子)
理事	太田 真一	カンボジア事務所	: 9名 (所長 チャン・スレイ)
理事	米倉 雪子	2017年4月1日現在	
理事	チャン・スレイ	東京事務局	: 3名 (事務局長 鎌田 苑子)
理事	関口 晴美	カンボジア事務所	: 8名 (所長 チャン・スレイ)
監事	鈴木 雅博		
監事	草野 榮雅		

▶ 活動履歴



幼い難民を考える会の理念

幼い難民を考える会、その原点「カオイダン難民キャンプ」から37年。
掲げる「理念」は、私達の活動の根幹として変わることなく受け継がれている。

Children, Our Future

今日の子どもの幸せが、明日の平和な世界へつながります。

1980年、内戦により難民となったカンボジアの子どもたちがタイ国境の難民キャンプの恵まれない環境のなかで少しでも人間らしい環境と必要な配慮のもとで暮らせるようにとの願いから、幼い難民を考える会（CYR）の活動は始まりました。

難民キャンプ閉鎖後は、復興をめざすカンボジアの農村で子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立を支援する活動に取り組んでいます。

会の名前を「難民の子ども」ではなく「幼い難民」としたのは、子どもという独立した人格を尊重する立場から、子どもたちの成長が守られて初めて、祖国を逃れてきた人たちの、あるいは、その国の自立の問題に結びつくと考えたからです。

また、「考える会」としたのは、助けるという意識がしばしば相手の自立を侵したり、相手を管理する体制に陥りがちであることを認識し、難民問題をいろいろな側面から考えていきたいという会の基本姿勢に根ざしています。

私たちはこれからも、さまざまな理由により厳しい境遇に置かれている子どもたちの健全な成長を支援し、その保護者たちが人間らしい生活環境のもと自立できることを

めざしてひとつひとつの小さな積み重ねを大切にしていきます。

そのことが、難民を生み出さない、明日の大きな平和を創る力となることを、信じています。



■ 東京事務局

〒110-0016
東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A
TEL: 03-6803-2015
Email: info@cyr.or.jp
URL: <http://www.cyr.or.jp>

■ プノンペン事務所 -Pidan Khmer 併設-

#170, St.63 Preah Trasak Paem,
Sangkat Boeung Keng Kang I,
Khan Chamkarmon Phnom Penh, Cambodia
TEL: +855-23-210849
Email: info@cyk.org.kh
URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

■ プノンペン事務所地図



会費お振込み、活動へのご支援は、こちらまでお願いいたします。

郵便振替 00110 - 8 - 36227

三菱東京UFJ銀行 六本木支店（普通）1351747

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

*CYRは、認定NPO法人です。ご寄附は、寄付金控除の対象となります。

2016年度年次報告書 2017

発行日：2017年8月 発行所：廣戸直江